

会 議 録	
会 議 名	平成 29 年度第 2 回丸亀市男女共同参画審議会
開催日時	平成 29 年 11 月 13 日（月） 午後 7 時～午後 8 時 50 分
開催場所	丸亀市生涯学習センター 5 階 視聴覚室
出席者	出席委員 天野裕子 鎌倉克英 佐藤友光子 白川昌宏 仙頭真希子 竹田艶子 谷淵陽子 近澤亨 中野実千代 中橋恵美子 奈良忠雄 引田真人 溝淵由美子 松岡繁 三好守 欠席委員 十河靖典 説明のため出席した者 総務部長 横田拓也 総務部人権課長 寺嶋寛 人権課男女共同参画室長 谷本智子 人権課男女共同参画室 横山武史 人権課男女共同参画室 糸川裕子
協議案件	(1) 第 3 次男女共同参画プランまるがめの進行管理方法について (2) その他
傍聴者	なし
議事の経過 及 び 発言要旨	<p style="text-align: center;">— 開会 午後 7 時 —</p> <p>委嘱状の交付</p> <p>あいさつ</p> <p>横田部長</p> <p>11 月初旬に、男女格差（ジェンダーギャップ）の大きさについて、国別に順位付けをした世界経済フォーラムの報告書（2017 年）が公表された。日本は 144 か国中 114 位であり、昨年より 3 つ順位を下げ、過去最低の順位であった。ジェンダーギャップ指数は、政治、経済、教育、健康の 4 分野で男女平等の度合いを数値化して順位を決めるものである。4 分野の中で日本がひと際出遅れているのが政治分野である。丸亀市でも女性議員は 25 名中 3 名であり、12%とほぼ全国平均である。報道によると、女性が初めて参政権を得た衆院選挙から、選挙区で女性議員が一人も誕生していない県が全国に 8 県あり、その中に香川県も入っている。全県を挙げて、各市町でさまざまな施策に取り組んでいるが、まだまだこのような現実がある。背景には、候補者を選ぶ政党の地方組織や地域社会が男性中心であることが指摘されている。</p>

		<p>時を同じく、“若い世代がジェンダー平等の社会をつくるために自分たちは何ができるのかを考え始めている”という明るいニュースも報道されていた。東京都の事例であるが、あるイベントの中で、大学生のグループがジェンダー課題の解決に向けた様々な提言をしていたようだ。「ステレオタイプのような男女平等の考え方は個人の能力を制限してしまう」という提言もあった。</p> <p>また日本では、ロールモデルが少ないと言われているが、高校生たちが平塚らいてうの「元始、女性は実に太陽であった」という言葉を引用して、「今女性は月のようだけれども、太陽になろう」という呼びかけを行ったというニュースを見た。若い世代がジェンダー平等の課題を本気で感じ、変化への準備ができているとするならば、彼らの力が本当に大きな鍵になると感じた。</p> <p>審議会委員のみなさまは、地域または職場でロールモデルとして活動しておられるので、みなさんのご見識、ご知見を持って丸亀市の男女共同参画を後押ししていただくよう、よろしくお願ひしたい。</p> <p>委員(自己紹介) 事務局(自己紹介)</p> <p>会長・副会長の選任</p> <p>三好委員 事務局に案があれば、提案をお願いしたい。</p> <p>事務局（谷本） 事務局より会長は佐藤委員、副会長は溝渕委員を提案する。</p> <p>委員全員 異議なし。</p> <p>会長あいさつ</p> <p>佐藤会長 90年代の後半からさまざまな社会経済指標が、悪化の一途を辿ってきた。10年代に入った頃から安定傾向にある指標も出てきたが、よくなった指標の1つに、出産1年後に就労継続している女性の割合がある。80年代以降の20年間、30～40%とずっと変わらなかった割合が、2010年代からの5年間で動き始め、約50%になっている。(ただし出産前から仕事をしていない方が約20%いるので、50%を超えたからといって女性全体の半分ではない)ほかの指標も好転し、いろいろな要素がうまく絡み合えばいい方向に一気に進むこともあるのではないかと考えている。そういう意味では今まさに全力で課題に取り組むべきだと思うので、みな</p>
--	--	--

事務局（谷本）	来年度の6月か7月の審議会（全体会）の予定である。
佐藤会長	担当課職員も審議会への出席依頼が可能ということだが、1回目の部会で依頼し、さらに2回目の部会に来ていただくということか。
事務局（谷本）	全体会で依頼し、1回目から部会に来ていただく、もしくは1回目の部会で依頼して、2回目の部会に来ていただくのもいいと思う。
天野委員	部会はどのように分かれるのか。
事務局（谷本）	プランは、目標1から8まであり、40個の施策がある。審議会には、施策ごとに評価していただくので、40個の施策をいくつかの部会に分かれて評価していただく。
佐藤会長	部会に分かれて評価することについてご意見はあるか。
中橋委員	<p>数値目標がない事業のほうが多いので、主観による評価になってしまうのではないか。人間が評価することであるので、それが本当にニュートラルな客観的評価とは言えない。担当課の評価は、「よくがんばった」ということで、評価が甘くなりそうな気がするが、審議会のほうで厳しく評価するかというと、委員一人ひとりの価値観によると思う。</p> <p>評価の仕方について資料3の1ページを例にあげると、リーフレットの発行部数を評価するのか、本当の評価というところで見るとリーフレットを見てくれた人の反応（「読みやすかった」「分かりやすかった」と思った方が50%以上など）で測るのか。すべての事業について客観的数値目標を設けるのは難しいことは分かるが、全体的に客観的数値目標が出ていない印象を受けるので、評価しにくい。なんとかできないか。</p>
佐藤会長	前回の審議会でも評価の仕方は問題になった。
事務局（谷本）	前回の審議会資料には、事業計画しか記載していなかった。事業を行う際の目標が記載されていないと評価ができないというご意見をいただいたので、担当課に追加で目標を書いてもらった。事業の目標として具体的な数字が出ている課もあれば、出ていない課もある。
中橋委員	出ていない課のほうが多い。
引田委員	同じものを見ても、AさんとBさんでは感覚が違う。評価にあたり、

		この事業については、こちらの方向から見てください、というものを担当課から示してもらい、それを評価する。つまりAさんもBさんも同じ方向から評価できるような基準を前もって提示してほしい。そうすれば、それに着目した評価ができる。
	事務局（谷本）	どの方向から見てほしいという視点は、事業計画に対する具体的な目標として追加した。
	引田委員	行政は、行政用語を使ってぼんやり表現する傾向がある。もっと噛み砕いた表現で、具体的な内容を提示してほしい。そうしないと感覚的な評価になってしまい、疑問が残るのではないか。
	佐藤会長	引田委員が言ったことは大切なことであると思う。担当課長は何名いるのか。
	事務局（谷本）	資料2の最後のページに記載している。25名である。
	佐藤会長	男女共同参画の意識をもっていただき、共有することが大切だと思う。実際難しいとは思いますが、各担当課職員に審議会に来ていただき、5分程度プレゼンテーションしていただくことが最もよいと思う。
	事務局（谷本）	そこまでは考えていない。より詳細を聞きたい担当課職員、特に重点目標に関連する施策の担当課職員を想定している。
	中橋委員	資料3には、平成29年度の事業計画が書かれているが、5年間を通して実施するのであれば、5年間の事業計画と位置付けてはどうか。 例えば資料3の61ページ、平成29年度の事業計画が「コミュニティで子育て世代の男性料理教室を開催」、具体的な目標は「平成29年度は6コミュニティで実施」と書いてある。平成30年度は「7コミュニティで実施」などと数値目標を置けば分かりやすい。平成30年度は、新規で開催できるコミュニティを開拓することに力を入れられると思う。 数値目標を置けるものはけっこうあると思う。数値目標を置かないのは、毎年事業計画が変わるからなのか、分からないから置かないのか。数値目標があると追い込みやすいし、評価もしやすい。数値目標がないのは何か理由があるのか。
	事務局（谷本）	資料3で担当課の横に書いてある数値目標は、プランの中に5年後の数値目標として記載しているものであり、数はそれほど多くない。例え

		<p>ばさきほどの「6コミュニティで実施」という目標は、平成29年度の事業内容に関する目標である。</p> <p>中橋委員 事務局（谷本） 横田部長</p> <p>プランに数値目標がないものは、毎年事業内容が変わるということか。</p> <p>例えば3年間実施して、4年目で事業が変わるということも考えられる。</p> <p>市のさまざまな計画の進行管理では、数値目標が非常に客観的で分かりやすいためできる限り置き、その数値目標の達成が最重要課題のようになっていた時代もあった。</p> <p>前回の審議会で「例えば講演会の参加者が何名、何箇所で開催という目標を達成したから、成果として上がっているという行政評価はしないしてほしい。これまでの数値目標主義は、やめてほしい」という意見もあった。</p> <p>今回の目標は、今年度の事業計画に関して、まさにこの方向から見してほしいというものを置いた。その評価は、数字が物差しとして適当なものは数字を置くのが分かりやすいが、そうではないものもある。ここで評価するのは、事業実施により目指すまちの姿に対し、どのような効果が得られたのかである。これは感覚的なものになるかもしれない。あるいは、講演会の感想で「今日の講演会はよかった」という声を啓発の効果として計上することもあるかもしれない。目指すまちの姿に対してその事業がどのような効果があったという各担当課職員のプレゼンがこの効果の部分だと思っている。</p> <p>見る角度によってちがう、物差しがないと測りきれないというのはご指摘のとおりだが、施策ごとに担当課長が評価をし、目標ごとの成果をこの審議会でもって評価していただくという仕組みにした。</p> <p>事務局（谷本） 横田部長</p> <p>今年度末から来年度にかけて、担当課に目指すまちの姿に対してどれだけ効果があったかという視点で、“事業実施により得られた効果”を書いていただく。これを一つの指標としていただきたい。</p> <p>その中で、もう少し具体的に実績としての数値がほしいということもあろうかと思う。その場合には、もっと補足するべきとご指摘いただきたい。あるいは担当課職員に詳しく聞きたいというのであれば、日程調整を行い、審議会に来ていただくようにしたい。</p> <p>佐藤会長</p> <p>本気度を見たい。</p>
--	--	---

仙頭委員		<p>“目指すまちの姿に対して、事業実施により得られた効果”は、計画を記載するに当たって、当然設定しているのではないか。例えば、パンフレットを配るといのは効果が分かりにくい、講演会であればアンケートをとる、授業であれば感想を聞く等、一つひとつの事業に対してもともと効果測定の設定はしてあるはずだと思う。それを前提に課長が評価し、なぜそのような評価になったのかを説明していただければ、ある程度分かると思う。より深く聞きたい場合には、実際に来ていただくということでもいいのではないか。</p>
事務局（谷本）		<p>来年度の6月か7月の審議会で、事業実績と得られた効果を一覧で見えていただくが、内容が不十分ということであれば、次の部会までに各担当課に内容を追加していただくことも可能だと思う。</p>
近澤委員		<p>この審議会で審議したことに対しては、もっと厳しく評価してもいいのではないか。そうしないと進まない。同じことの繰り返しである。意見はいいことばかり出てくるが、実際は各課の事業に十分反映されない。心を鬼にして取り組むべきである。</p>
三好委員		<p>審議会委員の立場では、みなさんが言うようにもう少し厳しい評価をしてほしいというのは分かる。しかし私や松岡委員のようなコミュニティとして事業を実施する立場では、今の事業計画にもコミュニティでの取り組みがたくさん入っており、もう限界だと感じている。平成29年度の事業計画は、かなり盛りだくさんだと私は思う。</p>
引田委員		<p>例えば資料3の20ページ、“内閣府男女共同参画局がホームページ上で公表している「女性の政治参画マップ」を市ホームページとリンクさせて紹介する。”という計画に対し、目標では“紹介1回以上”とあるが、一度紹介したら終わりか。実績には、今までとは違ってどんな工夫をしたかという紹介の仕方を書いてほしい。それに対して審議会委員の皆さんはどう思うか。全く違う立場から見るときに本当にその紹介の仕方がいいのかという意見もあると思う。</p> <p>しかし具体的な事業内容が分からないまま評価をすると、お互い感覚的なものになってしまう。一步でも先に進めるためにどのようにしたらいいかが分かるように書くよう、担当課に伝えてほしい。そうすれば担当課も書きやすくなると思う。数字を出しなさい、厳しくしなさいと言っているのではない。評価しやすいやり方にしないと無駄が多くなってしまおうと思う。</p>

三好委員		<p>事業実績の書き方は、分かりやすく、努力のあとが見られるように、もう少し事務局のほうで検討してほしい。</p>
事務局（谷本）		<p>例えばさきほどの資料3の20ページの例で、“紹介1回以上”というのは、“1回紹介した”という書き方ではなく、どのように紹介した、工夫したという書き方でよろしいか。担当課にはそのように依頼するようになりたい。</p>
天野委員		<p>主観で評価をしてしまうと意見が偏るのではないかという意見があったが、部会で評価する際には、一人でするのではなく、数名で判断すると思うので、ある程度の公平性は保てると思う。今の話し合いでもいろいろな考え方や視点があると感じた。そのための審議会だと思う。</p>
佐藤会長		<p>改めて確認したい。部会に分かれるという事務局からの提案に対して、委員の皆さんはご了承いただけるか。</p>
委員全員		<p>了承。</p>
鎌倉委員		<p>部会はどれくらいの数を設けるのか。</p>
事務局（谷本）		<p>5、6名ずつ3部会に分かれる予定である。偏りがないように今後検討し、調整したい。</p>
溝渕委員		<p>最初に評価基準を見たとき、すべてをB評価にしてしまいそうな気がした。1つの施策の中にたくさんの事業があるので、まとめて1つの評価を下すのは難しいと感じるからだ。評価の対象となるくくりが、もっと細かく分かれているほうがいいと思う。おおまかな評価をする意味はあるのだろうか。</p> <p>単年度で、高い理想を掲げた「目指すまちの姿」とくらべての評価は、難しいと感じる。人権課は、平成29年度の事業計画に性的マイノリティに対する取組みを書いてある。これを見ると、今年はこれに取り組むというのがよく分かる気がした。男女共同参画はすべてのことに関わっているので、たくさんの事業がある。人権課の例のように、実際にはいろいろと行っているが、今年はこれに取り組むなど、分かりやすくしていただきたい。</p>
事務局（谷本）		<p>人権課の例は、今年度取り組むことを欄に書ける程度のことで書いた</p>

		<p>のだと思う。男女共同参画室は、施策が細かく分かれているので、全てのことを計画欄に書けるが、ほかの課については、部分的にピックアップして書いたのではないかと思っている。また、今年はここを重点的に進めるとい意志の表れだと考えている。</p>
	溝渕委員	<p>市役所の行動計画なので、今よりも一歩先に進めるとい意識をもつということが一番大切だと思う。まず各担当課にその意識を持ってもらうということが男女共同参画室の役目だと思う。</p>
	事務局（谷本）	<p>まさしくPDCAサイクルだと思う。少しでも課題が見つければ、それを次の計画に活かすということが進行管理の一番大切な考え方である。それも含めて審議会からご意見をいただけたらと思う。男女共同参画室として担当課に十分に伝えられていないところもあるが、委員の皆さんから見て不十分なところをご指摘いただきたい。</p>
	溝渕委員	<p>実績は、いいところばかり書かなくてよい。これはできた、これはできなかったという視点で1年1年を過ごしてほしい。ただ空欄を埋めるのではなく、意識を持って取り組むという姿勢が浸透していつてほしい。意識の問題だと強く言いたい。</p>
	事務局（谷本）	<p>結局この事業計画は、そぎ落として簡潔な表現になっているので、十分伝わってこないと思う。その点は、また追加で聞いてもらう、担当課に来てもらうときに聞いてもらうという方がいいと今回考えていた。</p>
	溝渕委員	<p>各担当課に記載の依頼するときに「課題解決のためにどうしたかという点を分かりやすく書いてほしい。」と一声かけてほしい。努力する姿勢が分かることが大事だと思う。</p>
	天野委員	<p>最初、各担当課にどのような方法で依頼したのか。</p>
	事務局（谷本）	<p>メールで依頼した。プランの進行管理方法などについては、先日の男女共同参画推進幹事会（以下、幹事会）で概要をお伝えした。</p>
	天野委員	<p>幹事会は誰が出席するのか。</p>
	事務局（谷本）	<p>幹事会には、各部の総務担当課長などが出席する。プランに関連するすべての担当課長ではない。</p>

横田部長	男女共同参画推進本部会（市長、副市長、部長級がすべて集まった会）でも、プランの進行管理方法などをお知らせし、協力を依頼する予定である。今ご指摘いただいたことは、このような会議を通じて担当課に伝わるように情報共有したいと考えている。
佐藤会長	部会分けは事務局で行うのか。
寺嶋課長	次回の審議会で事務局から提案させていただきたい。
奈良委員	効果という位置づけをするから評価が漠然とするのではないか。目標を達成したか否かで評価するのはどうか。前回の審議会でも話題になったが、効果となると、中央化傾向があり無難なところを選びがちである。しかし目標管理制度では、目標を達成したか否かであるので、分かりやすい。したがって、目標管理をすればある程度達成したという位置づけでいいのではないか。
事務局（谷本）	目標を達成したか否かをみるのも一つの方法であるが、各担当課の目標が目指すまちの姿に適切かどうかという意見があればいただきたい。
奈良委員	そこは全然疑問に思っていなかった。その論議もするのか。
事務局（谷本）	この目標で進める予定であるが、それも含めて来年度ご意見をいただきたい。
鎌倉委員	プランの内容をこの審議会で議論した上で、策定されたと考えていいのか。そうすると“1（1）人権尊重・男女共同参画の意識醸成に向けた広報・啓発の充実”という施策は、リーフレットの発行部数などで効果を測りやすいが、“4（9）介護職場における人材育成、確保”は、効果が測りにくい。どういう測り方をするのか。施策を考えるときに、評価方法を考えずに施策を出してきたように感じている。奈良委員がさきほど言われていたように、目標が達成できたか否かをもっと簡単に見ること、数値で見るときは数値を達成したか否かを見れば、評価はできると思う。
佐藤会長	議事のその他について、事務局の方から何かあるか。
事務局（谷本）	ありません。

	中橋委員	<p>この審議会の開催時間だが、ワーク・ライフ・バランスといいながら、午後7時スタートの会というのはいかがか。調整すると一番参加者が多いからという事情もあるとは思うが。何か対策を立てないと他の審議会に対する示しが見つからない。働く時間を考えると夜開催するのは不適切ではないかと思う。</p>
	佐藤会長	<p>時間外労働をしないという世の中の流れもあるので、審議会の開催時間についてはまた考えさせていただきたい。</p> <p>予定していた議事に関する審議は終了した。その他、事務局から何かあるか。</p>
	事務局（横山、糸川）	<p>その他</p> <p>「男女共同参画川柳コンテスト結果」「2月17日の講演会」「性的マイノリティのパンフレット」「パープルライトアップのお知らせ」について事務局より説明。</p>
	佐藤会長	<p>本日の審議会はこれで終了する。次回の審議会は、来年度の6月または7月を予定している。</p> <p>— 閉会 午後8時50分 —</p>